

(2) 大用中学校

学 校 長 田 辺 長 美
校内研究代表者 大野 理絵

1. 研究主題 「生徒の思考力・判断力・表現力を高める授業づくり」

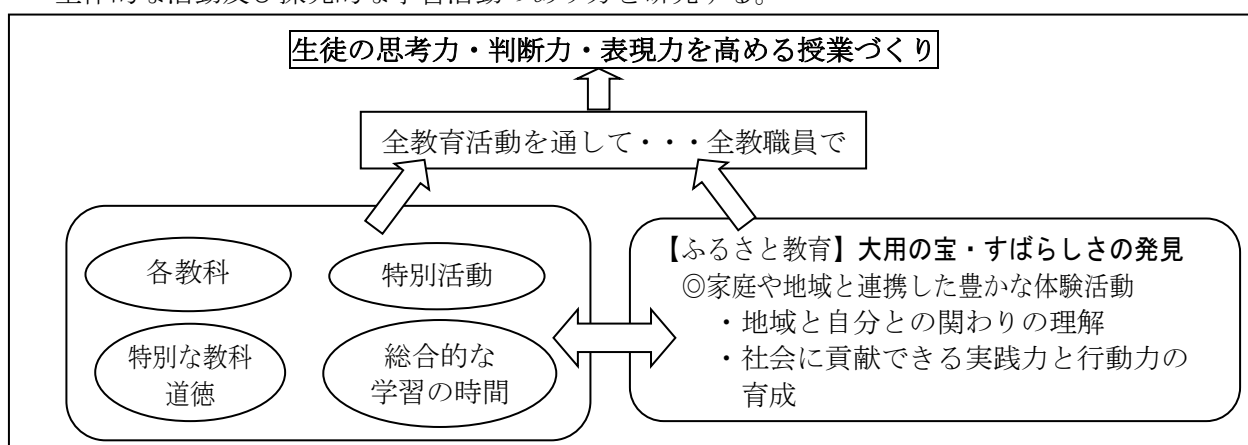
2. 主題設定の理由

本年度は1・3学年だけの2学級、全校生徒4名である。昨年度より生徒数は2名減となったものの、どの生徒も素直で真面目に、何事にも最後まで取り組むことができる。全校生徒の仲もよく協力し合って学校行事や体験活動等に積極的に取り組むことができる。それに伴い、生徒たちの学校生活満足度や自己肯定感、ふるさとを大切に思う気持ちも年々高まっており、これまでの地域と連携したふるさと教育の取組が成果へとつながっている。

しかしながら、学習面において、語彙力や読解力の不十分さから、根拠を明確に論理的に説明したり、情報をもとに整理・分析して表現したりする場面で弱さが見られる。少人数のため、対話活動や多様な意見を練り合うことで自分の考えを広げ、深めることも難しい状況ある。そこで、これまでの取組に加え、各教科や道徳の時間等をはじめ「思考力・判断力・表現力」を高めるとともに教科横断的な視点での授業改善に取り組むこととして本主題を設定した。

3. 研究の進め方と方法

- (1) 学力向上に向けて授業の質を高めるよう各教科の見方・考え方を定期的に共有する。
- (2) 教科横断的な視点での授業づくり・授業改善に取り組む。
- (3) 四万十市研究推進校指定事業「ふるさと教育」と連動し、総合的な学習の時間における生徒の主体的な活動及び探究的な学習活動のあり方を研究する。



(4) 具体的な取り組み

①学力向上に向けた取り組み＝授業の質の向上

◎研究授業・公開授業<指導案検討や事後研究にて各教科の見方・考え方を共有>

- 6月 7日(水) 3年社会「現代の日本と世界」
- 6月19日(月) 3年英語「Let's Read 1 A Mother's Lullaby」
- 7月 6日(木) 1年理科「物質の状態変化」
- 10月 4日(水) 3年数学「関数の世界を広げよう $y=ax^2$ 」
- 10月24日(火) 2・3年道徳「明日への希望-ジョン・マン・スピリッツ-中浜万次郎」
- 10月25日(水) 3年理科「化学変化と電池」
- 11月 1日(水) 3年社会「私たちの暮らしと経済」
- 11月 8日(水) 3年英語「Stage Activity 1 My Activity Report」
- 2月26日(月) 1年英語「Let's Read 2 City Lights」

②教科横断的な取り組み

◎ つけたい力やめざす授業を全教員で共有するとともに定期的に各教科の進捗状況や学習内容等を確認した。また、生徒が新聞から、情報を必要に応じて収集し、自分の考えをまとめる取組としてNIEノートの活用を毎週1回行った。さらに、月1回程度、全校生徒が高知新聞「特派員だより」に投稿し、生徒全員の記事が掲載された。

③ふるさと教育の取り組み

◎ 大用のすばらしさ発見や地域活性化、地域への感謝の取り組みとして、生徒から地元ならではの活動の要望が出され、生徒が主体的に取り組むことができた。

(ア)陶芸活動

地元の陶芸家から陶芸のおもしろさや難しさ、陶芸家を志した理由を教えてもらい、陶芸活動に挑戦することで物づくりの奥深さを理解することができた。

(イ)片魚産業祭準備への協力

地元の産業祭開催に向けて、地域の一員として準備に協力し、地域活性化や地域貢献につなげたいと生徒から要望があり参加した。新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度まで中学生は参加できなかったが、生徒は少子高齢化が進む地域の現状を理解しており、積極的に取り組むことができた。

(ウ)地域高齢者とのふれあい活動(スコープ三味線・クリスマス会)

高齢者との定期的な交流会でスコープ三味線を演奏したりクリスマス会で合唱やALTのトラペット演奏を披露したり、参加者が楽しめるよう生徒たちが工夫して取り組めた。

(エ)給食おもてなしご招待

本年度末での休校が決定し、これまでお世話になった方々に感謝を伝えようと地区長や読書ボランティアの方々に給食に招待した。全校生徒と一緒に食べる時間を楽しむことができた。

(オ)学校新聞づくりコンクールへの参加(銀賞受賞)

自分たちが住んでいる地域のすばらしさを多くの人に知ってもらうことで地域の活性化につなげたいと全員がアイデアを出し合い、魅力ある新聞づくりに取り組んだ。構成内容について生徒全員が話し合いを重ね、体験活動や学校行事、地域の方との交流、休校のことなども書き完成させた。生徒たちが役割分担を決め、協力することで、地域への思いを深めると同時に、伝えることの楽しさと難しさを知るよい機会となった。

4. 今年度の成果と課題

(1) 成果

- ①定期的に各教科の見方・考え方を共有するとともに基礎・基本の確実な定着及び「思考・判断・表現」の向上を意識した教科指導を行うことができた。
- ②教科横断的な取り組みを進めることで、総合的な学習の時間と各教科との連携を意識して授業改善に取り組むことができた。生徒の希望・考えをもとにふるさと教育に取り組むことで、学習内容が広がり、生徒の主体性や探究活動が高まった。
- ③授業改善を意識して取り組み、高知県学力定着状況調査5教科全てで県・全国を上回ることができた。また、5教科平均で観点「思考・判断・表現」において県比+23.2P、全国比+20.8P、解答形式「記述」において県比+33.1P、全国比+32.7Pと県・全国を上回ることができた。

(2) 課題

- ①各種学力調査等での「思考・判断・表現」や「記述」において、教科により正答率に差がある。教科横断的な視点を一層大切にして授業改善に取り組む。
- ②教科間連携をさらに進めるために、学習指導要領をもとに各教科の見方・考え方を定期的・計画的に共有し合う。各教科指導において、生徒が疑問をもち、自分事として考え生活と関連づけて課題解決できるよう、単元計画や授業構成を工夫する。
- ③授業改善と合わせてタブレットの有効活用について、情報交換や実技演習を計画的に行う。